

専攻科福祉専攻(介護福祉士養成課程)への思い

「卒業してからの私」

私は、13回生の金田美加です。卒業してNPO法人どんぐりの会に勤務して、8年になり、現在はグループホームのサービス管理責任者をしています。当法人はこの他に障害者就労支援B型、就労移行を行っている施設で18歳以上を対象としています。先天的な障害だけではなく様々な要因により、本来乳幼児期に発達すべき課題を18歳以降にも持ち続けているのが実情です。ですから、専攻科はライフステージの課題解決にむけた継続的なケアサービスにつなげていく視点が養われると改めて感じています。これは、専攻科福祉専攻で学んだからこそ、気づく視点です。

次に専攻科福祉専攻での思い出についてです。今のコロナ禍では、難しい体験を沢山させてもらい貴重な体験をさせてもらっていました。しかし、一部の私たちは、決められた集団行動についていくのが苦手な自分の為気のむくまま行動してしまったことがあります。肝心の医療的ケアを受けている子どもの2泊3日のキャンプでの気球に乗ることなく、仲間3人と脱走し車の中で居眠りをして不測の事態を作り困らせた事がありました。今でも、申しわないと思っていますが、先生は、「そんなことあった？」と忘れたふりをしてきていますが、胸が痛み続けています。

専攻科福祉専攻とは、大学祭に本社のパンを販売するコーナーを毎年作ってくれるので、ずっと卒業後も先生や毎年在校生と会うことができていました。在校生をみて「このような人が福祉現場に来ると困るなあ」などと思ったり、ご利用者さんに、無理やり、集団行動をとらせてしまい、上から目線で物事を勧めようとしてしまう自分こそが、集団行動が苦手であった、苦労させてしまった当事者であったと思い返し、原点にかえっています。気付けたことから学ぶこと、その時、わからなくてもあとあとで、気付くこともあると、大林先生は笑いながら言ってくれます専攻科福祉専攻がなくなり、大林先生も居なくなれば、謝る機会がないと気づき泣けてきました。

幼児教育・保育科、専攻科を卒業してから良かったことは、両方を勉強している事で視野が広がりました。発達や障害に合わせた伝え方、接し方、可能性を引き出すための環境のあり方が保育と介護でリンクしている所がありました。仕事でとても役立っています。

専攻科福祉専攻の最後になる在校生へ贈る言葉です。

どこに就職しても幼児教育・保育科で勉強した事、専攻科福祉専攻で勉強したことがとても役立ちます。様々な視点から、その利用者、園児を見る事が出来るので支援する幅が増えます。勉強した、3年間を存分に発揮してください！

私は、卒業して、ほんとに困った時、悲しい時、親身になって聞いてくれていた先生の存在の大きさ、色んなことに気づきました。専攻科福祉専攻を卒業して先生と出会い、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

これから、私は熊本に嫁ぎ、豊橋を離れますが、オンラインでのつどいの機会を遠距離から心待ちにしております。

専攻科福祉専攻の幕は、コロナ禍の中で閉じられますが悲しんでいる場合ではなく、いつも前向きな先生の姿を思い浮かべています。

本当に、心より感謝いたします。ありがとうございました。

2022年1月

13回生 金田美加